

蕨岡・舞の森会・幹事の新年会



四万十市の大雪で延期となっていた「舞の森会・幹事の新年会」が、ようやく1ヶ月遅れの2月28日から3月1日に実現いたしました。当初予定の1月24日の朝は豪雪の様相。友人たちの住む、四万十市の家の外は真っ白、高速道路も寸断し、外出不能のためやむなく延期。あの日から待ち遠しい1ヶ月でした。四万十の友は大雪の日から「荷物を解きもせずそのまま持参した」そうです。御年67歳ばかりで、メンバーは、校長先生、壮一君、正博君、公明君、多恵ちゃん、トンコ姐、幸男君、操ちゃん、美智子の9名です。

●第1日目 2月28日(日曜日) 休暇村「讃岐五色台」泊

出発日は待ち遠しくて集合時間よりも30分も早く新大阪駅に到着しました。時を同じくして幼馴染もまた、30分早く到着です。新幹線に乗って、まず坂出駅で出迎えしてくれる松山の幸男君に到着時刻を連絡しました。お喋りをしていたら、あっという間に岡山駅。マリンライナーに乗り換え、40分ほどで坂出駅に到着。四万十組と合流して一緒にうどん県を楽しみたかったのですが「四万十出発午前10時」とのんびりしており私達3人だけが、うどん県を楽しむことになりました。



まずは腹ごしらえと、うどん県に来たからには讃岐うどんだと「日の出製麺所」の店の前に到着しました。何とズラーっと100人以上並んでいるではありませんか！幸男くんが「どうする?」と聞くので「勿論並ぶよっ〜!」。幸男君が駐車場待ちしている間に私達は列の最後尾へ並びました。列の後ろの人は東京から来たと言う。「え〜っ?東京からわざわざ?」って言ってしまいましたが、私達も大阪からだから…大きなお世話でした。知る人ぞ知る「日の出製麺所」。うどん通の人なら知らなきゃモグリらしい。営業時間は午前11時から午後の12時30分のたった1時間30分だけ。しかし列さばきの見事なスタッフのおかげで苦にならない時間で席に着くことができました。偶然にも、四万十組も以前、店を訪れた事があるらしいのですが残念ながら営業時間が過ぎており食べずに帰ったことがあるらしいです。昼食の後はチェックインにはまだ早いため「青山224.5m」に登りました。山頂からは春霞がかかり、スッキリとは見えませんでしたが霞のかかった讃岐富士もまた美しかったです。次なる見物は「瀬戸大橋記念館」に行きます。瀬戸大橋記念公園の中にあり昭和63年11月の完成までの歴史を見ることができました。小春日和でポカポカと今にも桜が開花しそうな感じがした瀬戸大橋記念公園を出て世界のガラス館に行きました。6000万円もするシャンテリアが見もの

だったらしいですが残念ながら2014年11月に閉館していました。再開の予定もあるらしいですが立派な建物なのに今では寂れていました。そろそろチェックインの時間が迫ってきたため1泊目の宿である休暇村「讃岐五色台」へ向けて出発。走り始めた途端「何しよるが?今どこにおるが?うちらは宿に着いたちや〜!」と四万十組からの電話がかかりました。遅れること20分……懐かしい仲間との合流です。昨年の10月に熱海の同窓会で会っていますので、わずか4ヶ月しか経っていないのですが、妙に懐かしさがこみ上げてきました。既にテーブルの上にはビールの缶が何本も横たわっていて、相当出来上がっているようです。入浴を済ませ、午後6時賑やかに新年会がスタートしました。



中村方式で挨拶も省略し、まずは声高らかに乾杯をしました。

本来の食事はバイキングなのですが世話役の幸男君が個室を交渉し会席料理が次々と運ばれてきました。



飲んで、食って、喋って、やがて二次会会場へ移動です。校長先生が同窓会のために7人乗りの新車を購入した話で盛り上がり、四万十市からの長い道中、メンバー全員が運転交代できるのに誰にもハンドルを握らせなかったことや「雨が降ったら車が濡れるけん、参加しないと決めていた」など愉快的話で盛り上がりました。しかし、どんなに酔っていても秋の同窓会の話になると真剣に話し合いました。日程、宿泊場所などの主たる骨組が決まったところで長旅の影響もあり午後10時、早々に各自の部屋へと解散しました。部屋は9人で4部屋とゆったりとしています。女性軍は「別々は寂しいけん一緒に寝ようよ」と言うことになり、ひとつの部屋で一緒に寝ることにしました。

女子4人の部屋なのに何故か

スリツパは5人分……校長先生が侵入しており、すったもんだで寝たのは12時を廻っていたのではないのでしょうか。例の如く私は誘眠剤の力を借りて「イの一番」にゴーゴーだったらしいです。



●2日目 2月29日(月曜日) 休暇村「大久野島」泊

朝食は目覚めた者から自由にバイキング会場へ行き、思い思いの食材を頼張り、食後には酔い覚めのコーヒーを頂きました。朝食のあとは、部屋に戻りハーモニカコンサートの会場作りをしました。1月予定の新年会で「雪の降る街を聴かせてや〜」とリクエストしていただきましたのでレパートリーを増やしてくれたそうです。



「ああ上野駅」「岸壁の母」「スキー」「雪の降る街を」「みかんの花咲くころ」「月の砂漠」など美しい音色にうっとりとして耳を傾けました。宴会時のざわついた時間でなく朝の爽やかな時に静かに聴くことができ良かったです。ハーモニカコンサートの後はそれぞれが出発準備を済ませ、四万十号と松山号の2台の乗用車に分乗



し大久野島へ向けて出発です。しかしすぐに松山号が急停車しました。小雨の中を藪の中に走り去る老女あり……朝食に冷たい牛乳を2杯飲み腹痛を起こしたらしく、藪に駆け込んだものの何とお騒がせな「プー発信」だけだったそうです。(犯人はみっちゃん) まずは丸亀城へ。丸亀城では小雨に遭遇し、校長先生の新車は雨に濡れることとなりました。
車に傘をさすわけにも行かず…合羽を着せるわけにもいかず…。(笑)

亀山（標高 66 メートル）の山麓から山頂まで四重に重ねられ、総高60メートルの石垣は日本一高いとされる**丸亀城**。城跡の全域は国の史跡に指定されており亀山公園となっています。天守の最上階からは、瀬戸大橋など瀬戸内の風景を眺めることができました。それにしても急な階段の上り下りが大変でした。(若干1名膝打撲) 丸亀城を後にして善通寺インターから高速・松山道を走り2台の車は石鎚サービスエリアで合流、此处でトイレ休憩です。小松インターを出て、途中の道の駅「周ちゃん広場」で昼食の買い物やウサギの餌の人参も買いました。みな思い思いの食材を片手に昼食を済ませ**今治タオル美術館**に立ち寄りしました。今治タオルと言えば偽ブランドで最近話題となったばかりです。何故こんな場所にお城の様な建物がと首をかしげるほどの立派な建物でしたが、初めて行く人には見つけ難いです。



館内はタオルに関する美術品や今治タオル製造工程も見ることができます。



色とりどりのタオル生地がロール状に壁にかかっておりました。なぜかわからないですが、大規模にムーミン



も展示されておりました。子供連れだとももしろいかも。すべての見学を終えて今夜の宿泊地である大久野島へ船で渡ります。

盛港に車を駐車させておき、船で**大久野島**へ。大久野島への一般車両は乗り入れ禁止。犬、猫持ち込み禁止、



天敵はカラスのみと言ううさぎの楽園。小雪が舞い始めました。寒いと言うより冷たいです。船の発着に合わせて宿のバスが迎えにきてくれています。



歩いても10数分で到着する位置に、たった1軒だけ宿泊施設があり夏場にはキャンプもできるそうです。バスの運転手さんが島のガイドをしてくれました。至る所にピョンピョンとウサギが跳ねています。ウサギを驚かさないように、轢

かないように、歩いた方が早いような速度で走りホテルに到着しました。どこを見てもウサギ、うさぎ…兎〜。犬や猫の糞は汚い、臭いと感じますがウサギの糞はコロコロと可愛く臭いも



ありません。島全体がウサギと共存している様子がよくわかりました。午後



5時チェックイン、この日は寒さが厳しくて散策は翌日回しにすることにしました。まずは風呂に入り冷えた身体を温めました。

午後6時夕食会場へ。午後8時からウミホタルの鑑賞会が館内であると言うので宴会終了後そのままウミホタル観賞会にいきました。小さなガラスのコップにウミホタルが入っていると説明がありましたが肉眼では見づらいほどの小さな物体です。灯りを消し電気ショックを与えると驚いて発光しました。「光ったっ～！もう一度っ！」しかしこの行為は2度しかしてはいけないそうです。それもそのはず電気ショックですから何度も当てるとウミホタルが死んでしまいます。夜になるとフェリー乗り場あたりに沢山集まってくるそうです。

最後の酒盛りタイムは隣の部屋に迷惑のかからぬ様に一番隅の部屋で行いました。2泊目となると話題がなかりうにと思いますが、小さな頃の遊びや食べ物の話、うなぎの裁き方、米自慢、農機具自慢等々話題に事欠くことはありませんでした。再度同窓会日程、場所、それに加えて来年度の開催地を「和歌山・白浜方面」に決定しました。提案者の八代生ちゃんをリーダーに関西支部が全面でサポートして楽しい同窓会を開催したいと思います。

ビールのストックもほぼ出そろったところで誰とはなしに「おひらき」の合図を出して、それぞれの部屋へと散っていきました。「おっ？今回は何事も事件が起きないぞ～」



●3日目 3月1日(火曜日) お別れの日

大久野島は「地図から消された島」とか「毒ガス島」などと呼ばれていましたが、島外の小学校で飼育され



ていた8羽のウサギが1971年に島に放されて野生化し繁殖して2013年に再度調査したところ700羽にまで増えていました。このために大久野島は「ウサギ島」とも呼ばれるようになりました。

大久野島の朝の気温は6度。午前7時からホテルスタッフ誘導のもとに散策コースの案内がありました。



小さな島ではありますが見どころも沢山あり景色も抜群に良いです。夏ならば海水浴も出来ます。夜には船着き場あたりでウミホタルの鑑賞もできるそうです。ホテルを一步出ると、お腹を空かしたウサギが待っていました。



持参したお野菜を袋から出す間も待てないほどに群らがってきます。ああ、着替えを減らしてでも、もっと沢山野菜を持ってきてあげたらよかったと後悔しきりです。散策中の山道からでも人間の気配がすると、どこからともなくやってきます。本当に可愛いと思いました。灯台跡などを散策したのちに朝食を済ませ、その後、清算完了。チェックアウトした後は徒歩で港をめざします。途中、ガス製造記念館を見学しました。

「毒ガス資料館」

昭和2年、島全体が陸軍の毒ガス製造を目的として管理下となり、昭和4年には毒ガスの製造が始まり昭和20年まで続けられたそうです。日本軍が毒ガスを製造していたということは、昭和59年まで日本ではほとんど知られていませんでした。昭和59年に日本の化学戦実施に関す



る報道がされて以来、日本の毒ガス兵器の研究開発は大久野島だと明らかにされました。現在の大久野島は休暇村として開発され国民の保養地となり、往時を偲ばせるものはわずかに砲台跡・発電場・毒ガス貯蔵庫など



数少なくなっています。この島で毒ガスを製造した過程で多くの犠牲者を出すに至ったこと、この痛ましい事実を今に伝えるため、関係各位からよせられた当時の資料を展示して毒ガス製造の悲惨さを訴え、毒ガス製造の歴史を風化させないという地元住民の願いがあり、毒ガス資料館が建設されたそうです。戦後ひたすら島の存在を

隠そうとした悲惨な歴史を見た気がします。毒ガス資料館を出て船乗り場まではわずか10分ほどです。

トンコ姐のゴロゴロとキャリーカーを押す後をウサギがゾロゾロとついて来る。ゴロゴロ、ゾロゾロと静かな島が笑いの渦に包まれ、とうとうトンコ姐改め

「ゴロゴロおばさん」と改名する羽目になりました。港についても別れを惜しむようなウサギの群れ、かと言って餌は無し。もうまもなく船が来ると言う直前になって、ゴロゴロおばさんが部屋の鍵を持ったままであることが判明しました。

ゴロゴロおばさんは慌ててホテルに引き返そうとしましたが「バスの運転手に預ければいい」と言うことになりバ



スドライバーに事情を説明しました。ドライバー曰く「よくぞ乗船前に気付いてくれました」と笑っていました。

今回の事件簿はゴロゴロおばさんに決定～！大阪に帰る私達

は10時45分発の小さな船で忠海港(ただのうみ)へ、四万十・松山組は10時42分発の大型フェリーで車のある盛港へと別れました。わずか約12分で本土に上陸。下船後 JR 忠海駅から三島駅で新幹線レールスターに乗り換え、「尾道・福山・倉敷・岡山」と各駅停車に乗り、岡山からは「ひかり472号」で、ゆったりのにびりと足を放り出して、新大阪駅まで戻りました。松山の幸男君は既に自宅に到着との事。四万十組はあちこち寄り道をして夜には帰れるだろうとのこと。

次回の同窓会は11月6日(日)から11月8日(火)と決定。

同窓会自体は1泊2日ではありますが四万十名物の「アゲと言う名の反省会」のための1泊延長、しかも前夜移動となるかもしれません。気の早い話ですが来年は和歌山白浜方面と決定しました。楽しい集いは「元気なれ



ばこそ」を合言葉にして再びお会いするまでみんな達者でいましょうね。おしまい

